



ボタンを押した時に発生する振動を使って発電し、液晶テレビを操る

《会社概要》
 ▽本社 神奈川県藤沢市遠藤4489の105 慶応藤沢イノベーションビル3F
 ▽社長 速水浩平氏
 ▽事業内容 音力発電、振動力発電に関する基礎研究及び新製品の研究・開発など
 ▽従業員数 6人
 ▽売上高 3400万円(2011年3月期)



音力発電

振動を電気に変換

電池不要のリモコン

リモコンのボタンを押すから入居している。と、アンテナからデータが飛んだ。やや本体は大きいものの液晶テレビのチャンネルや音量の操作はスムーズにできる……。

発電床で存在感

このリモコン、実は電池なしで動く次世代モデルで、半導体大手ルネサスエレクトロニクスとの共同開発品だ。ボタンを押した時に発生する振動などを使って発電し、液晶テレビを操作。1年前から試作モデルを展示会などに出品しており、製品化に向けて最終段階に入っている。

船のエンジン検査機器でも実績がある。従来、船舶エンジンは熟練工が耳で異常音を確認するが、その作業には危険が伴う。エンジンの振動からつくった電

から入居している。音力発電の存在を世に知らしめたのは、発電床だ。床材と土台の間に特殊な圧電素子の基板をセット。床が踏まれるたびに電気が流れるようにした。「新江ノ島水族館」では展示コーナーの入り口に取り付けられ、クラゲを模したLED電球100〜200個を光らせている。

船舶のエンジン検査機器でも実績がある。従来、船舶エンジンは熟練工が耳で異常音を確認するが、その作業には危険が伴う。エンジンの振動からつくった電

振動から電気をつくる。音力発電(神奈川県藤沢市)は、発電革命の先頭を走る。国内外の大手メーカーが水力や風力などの大規模発電に目を向けるなか、いち早くノウハウを蓄積。節電の新たな切り札として導入を呼びかけている。速水浩平社長は「300種類ほどの実用化プランを考えている」と自信を隠さない。

ルネサスと開発 実用化最終段階



速水社長は実用化に自信を示す

はあまりにも効率が悪く、結局、音を含めた振動に研究の力点を移した。

圧電素子で特許

6年9月に会社を設立した時には、大手企業や上場会社の社長などから出資が集まった。事業の根幹でもある圧電素子では特許も保有しており、11年からは大手メーカーと組んで新型素子の開発も進めている。現在よりも発電効率が10倍になる素子の開発を目指している。成功すればさらに製品用途は拡大できる。

速水社長が開発を始めたのは、大学2年の時だった。小学校の理科の授業でモーターの仕組みを習い、「電気を発生させる」(指宿伸一郎)

気で、エンジンの振動波形を分析して送信する試みが続いている。